

学術研究実績報告書

申請書との変更点およびその理由(内容、日程、実施場所、参加者等で変更があれば記入)

研究目的に鑑みて、申請書で提案していた企業家へのインタビュー調査に加えて、企業家が事業の失敗を振り返るブログのデータベースに関するテキスト分析をおこなった。なお、インタビュー調査に関しては対象者のご厚意もあり、謝金不要となった。そのため、当該目的で支出を予定していた分を、英語論文の翻訳・校正費用に充てた。また、研究期間中に所属機関を異動になったことにより研究スケジュール・予定に変更が生じ、国際学会への参加を見送った。その代替として、企業家による事業の失敗の振り返りに関する調査・資料収集を目的として、海外でのハイテクスタートアップのシンポジウムに参加した。

研究実績概要

研究代表者(申請者氏名・所属機関・職名): 足代 訓史・拓殖大学 商学部・准教授

研究課題名: 企業家による失敗からのリカバリープロセスのメカニズムに関する研究

研究期間: 2017年10月1日～2019年9月30日

概要:(1,000字以内で記述)

本研究においては、企業家による事業の失敗からのリカバリープロセスとその成果に関して、企業家が「失敗を『どう意味づけしながら』回復していったのか」と、企業家が「失敗からの回復過程を経て事業のどいう部分への認識を変えていったのか」という2つの論点の検討をおこなった。

研究方法としては比較事例研究による命題・仮説抽出をおこなった。具体的には、事業の失敗を経験した企業家へのインタビュー調査と、企業家が事業の失敗を振り返って記述したブログポストのテキスト分析を遂行した。また、研究の分析枠組みの検討においては、ビジネスモデル論やエフェクチュエーションといった概念の整理・検討をおこなった。

研究期間内に明らかにできた、企業家が事業の失敗に直面した際の意味づけの要諦、失敗からの回復過程に関して検討すべき論点は、主に以下の3点である。

- (1) 企業家自身が振り返る事業の失敗の要諦としては、事業計画・ロードマップの策定の不十分さや収益構造の検討不足が最も特徴的である。これは、近年着目される企業家のエフェクチュエーション思考とは逆の、目標主導のコーゼーション思考の欠如が失敗の要因であると示唆される。このことから、エフェクチュエーション思考からコーゼーション思考へのシフトの壁や両者のハイブリッドのマネジメントに関する論点が抽出される。
- (2) 起業に際しての拙速なユーザー調査と市場の深耕・分析不足、製品設計の検討不足も事業の失敗の要諦として企業家に意味づけされる傾向にある。これは、リーン・スタートアップに基づき素早く仮説検証を繰り返す起業を意識するあまりに失敗するというパラドクスを示唆するものである。
- (3) 企業家がビジネスモデルを構築する際には、「オペレーション構造(業務モデル)」、「収益モデル」、「コスト構造」の間の整合性を確保することが最も困難となる。

本研究は研究期間内に、国内学会発表1回、論文誌への掲載1本が成果となった。また、経営実践に寄与すべくビジネス書の執筆も進めており、研究期間後ではあるが2020年度前半に刊行の予定である。

* 研究実績概要は「野村マネジメント・スクール研究助成実績報告書」および財団ホームページに掲載します